工業大学新聞

1969
6月20日号
第679号
発行／毎月5日・20日　1部15円
〒共・年間150円振替東京76839

東京工業大学新聞部企画室内新聞部■目黒区大岡山2－12－1■電話（726）1111・内線（2392）

□論文募集
――闘いからの表出□
新聞会

〈紙面案内〉
□一面　全国教員集会集会報告
□二面　東工大学生と民青
□三面　「動力炉」問題について
□四面　学問そのものの止揚へ
□五面　戦後民主主義と党派の問題

今斗っている者の連帯を

私は現実をなるべく客観的にとらえようとしているつもりだが、私自身この集会に参加するかどうかについてもおおいに悩んだ。集会からの帰りの電車の中でも、この集会に参加すべきだったのかどうかについて考えつづけていた。

しかし、時間がたつにつれ、私の悩みは、この集会に参加したかどうかということよりも、この集会の内容そのものについてのものに変わっていった。

私は、この集会の内容を、新聞などの報道によってしか知らない。しかし、新聞報道によるかぎり、この集会は、全共闘運動の現状を全く反映していないように思える。私自身、情況が出版されるまでの一カ月間に、全共闘運動がどのように変化しているかを知ることはできないが、この集会は、全共闘運動の現状を全く反映していないように思える。

また、私自身の経験に照らしても、学内闘争の現場から距離をおくことは、情況から取り残されることを意味するであろうし、全共闘運動の現状を知ることができないということは、全共闘運動の現状を変革することができないということを意味するであろう。

私は、この集会に参加しなかったことを悔いてはいない。しかし、この集会に参加しなかったことによって、私の中に、全共闘運動の現状を変革することに対する責任感が生まれてきたことは事実である。

私は、この集会に参加しなかったことによって、全共闘運動の現状を変革することに対する責任感が生まれてきたことを、積極的に評価したいと思う。

（Y）

教官にとって大学解体とは何か

全国教員総合集会

徹夜討論会報告

5月29・30日

学問そのものの止揚へ

今後の斗いの方向は何か

戦後民主主義と党派の問題

新入部員募集

情況の変革から
――変革の情況へ
新聞会（TEL・内2392）

現代学問の本質をとらえた真の入門書ついに誕生　全24巻

学問のすすめ

大学とは何か　学問とは何か　現代の要請にこたえる総合アカデミアの誕生

筑摩総合大学　全100巻

6月20日刊行　全巻書下し！

★従来の講座的な学問の分類にとらわれず、あくまで現代の要請にたって、体系的・総合的に学問を再編成する。
★全大学、さらに大学外をも含めて現代に望みうる最高の執筆陣により厳選した新しいシリーズ

■第1回／3冊同時発売！

学問論
田中美知太郎

人生において「学ぶ」ということはどういう意味をもつのか。また「学ぶ」とは具体的にはどういうことなのか。目的において学ぶべきものと、知識・技術の習得のために学ぶべきものとの相違点は何か。現代における学問のあり方について、根源的な問いかけをおこない、学問の本質を明らかにする。

現代経済学
都留重人

今日、経済学の現代への対応の仕方については、学問の本質にかかわる問題をもっている。いかなる方向に進むべきか、経済学を社会科学の基礎科学として確立するためには、どのような問題点があるか、現代経済学の課題と展望を明らかにする。

現代地球科学
竹内均・島津康男

地球の誕生、地球の内部構造、地震と火山、地殻変動、地球の歴史、地球の環境など、地球をめぐる諸問題を、地球科学の最新の成果をもとに、わかりやすく解説する。

■3冊同時発売中！

教育学のすすめ
斎藤喜博

教育の現状と、四十年にわたって一貫した実践をふまえ、真の教育のあり方を提言。授業とは、どういう内容と構造によるものか、学校教育とは何か、教育における人間とは、教育の目的と方法、教師の仕事と生活、教育の歴史と現代の課題など、教育の全体像を明らかにする。

医学のすすめ
川上武・松田道雄編

医学の現状と問題点を、医学史の流れのなかで、多様な視角から解明する。「医学の門」―「医学と人間」―「医学と社会」―「医学の歴史と方法」―「医学と科学」―「医学と哲学」―「医学と教育」―「医学における人間」―「医学の未来」の全10巻。

数学のすすめ
赤摂也・前原昭二・村田全編

あらゆる学問の基礎である数学。高度に理論的な数学の世界と、現実の諸問題との関連を、数学の歴史と方法、数学と科学、数学と哲学、数学と教育、数学における人間、数学の未来の全10巻。

■好評既刊／8冊

学問のすすめ	大岡昇平・清川元夫	420円
法学のすすめ	井上茂・碧海純一	420円
経済学のすすめ	都留重人・伊東光晴・正村公宏	420円
社会学のすすめ	作田啓一・日高六郎	420円
心理学のすすめ	波多野誼余夫・藤永保	420円
文学のすすめ	吉田精一・臼井吉見	420円
物理学のすすめ	井上健	420円
哲学のすすめ	梅原猛・熊沢光雄	420円

筑摩書房　内容見本呈　東京都千代田区神田小川町3の28

6.27

大学立法粉砕、東工大闘争勝利!!

東工大、一千名で国会デモ

夜、全都全共斗と共に再度進撃

二月二十七日午前、大学立法粉砕千人デモを闘うべく、東工大玄関前には、全学の学生、院生、教職員が、続々結集した。

大学立法粉砕六・二七千人デモは、全闘委・院闘委を中心に結成された実行委を軸に組織活動が行われてきた。

全学総決起集会は、六・一五闘争を上回る、千人近くの全工大人が参加する中で行われた。

集会は、実行委に結集する全闘委、院闘委、助手ゼミから、闘いの立法粉砕の決意表明がなされた。

そして、午後一時、国会デモを行うべく、日比谷公園に向った。

午後二時、東工大千名の部隊は東工大において画期的な国会へ向けての単独デモに移った。

デモは、官憲の弾圧に抗しながら、日比谷→溜池→虎ノ門→土橋のコースを、終始戦闘的に展開された。

土橋において、簡単な解散集会を開いたのち、全都全共闘総決起集会に結集するため、明治公園に向った。

この日の千人デモは、まず千人という量を結集しえたという点で第二に単独で国会デモを敢行しえたという質的な意味で、東工大闘争の質を高める飛躍的な契機として評価できる。

更に、この日、度重なる裏門バリケード破壊に抗して、強固なバリケード構築の後、ピケット強化をもって、なし崩し授業再開粉砕に向けた。

東工大を先頭に

すでに四時になる時、東工大の部隊は、千駄ヶ谷駅に降りた。同駅前を堅める機動隊約二千人は、ヘルメットの着用を一斉規制し、カバン、旗ザオ等を一々チェックするデモ規制の更なるエスカレートを行った。

東工大二百名の部隊は、明治公園に結集する。東大、日大、中央等二万人の「大学立法粉砕、全都全共闘総決起集会」にと合流。全山委員長（代行）からのあいさつおよびブント系全学連書記局、日本学生解放戦線、プロ学同、フロント等々の党派の援助に続い、東大全共闘を始めとする各大学からの挨拶があった。

午後六時ごろ明治公園から東工大を先頭に出発。日比谷公園までのデモンストレーションを貫いた。この日の総決起集会は、全都全共闘を中心としながら、個別学園闘争をバネに、大学立法粉砕に向けた、学生だけによる一万人の集会であった。この点で大衆的であり、尚かつ、戦闘性を内包したこの日の集会は、六・一五集会への多数の学友の参加が、学園内のみならず、新宿駅頭等から巻き起っている反体制運動に対する政治闘争への一定の集約として位置づけられよう。とりわけ、大学闘争の激発が質的に飛躍をとげることと、大衆的な決起集会を政治闘争へのラジカルな飛躍は、相関している。東工大における、千名デモの文字通りの貫徹と、授業のなし崩し再開にと集約しようとする大学当局の策動に対する闘いも同様である。

（明治公園を出発する東工大部隊）

「情報」万能と拡散化

新宿西口集会の意味

ルポ

動労ストと我々

獄中の学友からの手紙（その三）

T・K君より

義理と人情の社会主義（三面よりつづく）

演劇

バリケードの中での上演

カミュ「誤解」

新たな演劇運動の創造

東京工業大学 演劇研究部
青山女子短期大学 演劇部

新入生・闘争・演劇

新しい演劇運動の中で

「誤解」について

A・カミュ
「誤解」
七月六日（日）PM三時
東工大にて上演

意欲あふれる君に提言!

八幡エコンスチールはスチールとアルミのトップメーカー。

昭和30年，軽量形鋼の生産の成功をかわきりに，カラー鋼板，アルミサッシなど，つねに新製品開発に挑んできた。「業界のパイオニア」といわれるゆえんもここにある。また，販売高でもめざましい伸びをみせ，昭和33年度の約16億円から43年度には約200億円と驚異的な発展を示している。

だが，八幡エコンスチールを世界の歴史に刻むためには，新鮮な頭脳，若々しい情熱が必要だ。

さらに飛躍を期しての第一歩，君もともに踏み出しませんか。

● 採用関係連絡先

当社につきさらに詳しくお知りになりたい方は，遠慮なくお訪ねくださるか，文書または電話でご連絡ください。

東京都中央区日本橋江戸橋3－2　第2丸善ビル
TEL　272－5071（大代表）
本社総務部人事課　採用担当者　石橋

創立　昭和27年
資本金　20億円
年間売上高　約200億円
従業員数　約1,500名
工場　大阪，東京，戸畑，松戸，君津，前橋
支店　大阪，名古屋，九州（北九州）

八幡エコンスチール株式会社
東京都中央区日本橋江戸橋3－2
第2丸善ビル
TEL　272－5071（大代表）

ジャノメ 採用作戦

ジャノメは世界一のミシン専業メーカー。その発展は驚異的だ。海外にも多くの拠点を築き、完備された研究施設、強力な販売体制をもって世界に君臨している。

新しい市場が、新しい技術が、新しい仕事が毎日生まれてゆく。社員の一人一人に期待されるものも大きい。だから、だろう。社員はあたかも水を得た魚のごとく、生き生きと働いている。平均年令27才。若さに満ちている。しかし、国際市場を制覇するジャノメはさらに若い人材が欲しい。それによってもたらされる企業の新しい展開を望むからだ。あらゆる可能性に挑む創造性ゆたかな人物、夢多き青年。しかも根性がある。ジャノメはこんな人材が欲しいのである。

募集要項

提出書類　①身上調書（会社所定の用紙、写真貼付）②学業成績証明書　③身体検査書　④戸籍謄本

試験内容　筆記（専門、英語、能力検査、適性検査）、面接、健康診断

初任給　三三、五〇〇円（44年4月入社者）

勤務地　東京（本社・工場・技術研究所）、海外

応募についての連絡先

入社ご希望の方は、ご遠慮なく来社または電話でお問い合わせください。

東京都中央区京橋三－二　〒一〇四
蛇の目ミシン工業株式会社　労務部人事課人事第二係担当堀・田中
電話　二七二－七五三一　内線　五三五・五三六

義理と人情の社会主義

個は個を貫徹する

はみ出し教養講座

変革のための自主講座

紛争工学科

表現は表現を貫徹する

赤は赤を貫徹する

化学の進歩派

無限の可能性に挑戦する
総合化学メーカーです！

資本金　48億円
従業員　3,500名
設　立　昭和17年3月

応募希望の方は、いつでもご連絡またはご来社下さい。

東亞合成化学

本　店　東京都港区西新橋1-14-1 TEL(502)2311(大代)
営業所　東京・大阪・名古屋・高岡・坂出・福島・広島
工　場　名古屋・徳島・高岡・坂出

国土を開発し
都市を創造する
日立建機

つち音高く明日の繁栄を建設する工事現場。ここにたくましく活躍しているのが日立建機のショベル、トラクタ、クレーン、ブルドーザなどです。

当社は、技術の日立が独自に開発した建設機械および農業用機械の販売とサービスを一手に引き受けている新進気鋭の会社です。ショベルはここ10年業界一のシェアを確保し、トラクタは専門工場を備えて量産化を実現しました。

世界一の成長経済を基盤に、道路、港湾、コンビナート建設、都市再開発など、今や、優秀な建設機械は大きな需要に恵まれています。営業開始4年にして、売上高、従業員数共に2倍以上に増えた当社は、日立グループの中でも特に成長を期待されています。

入社後の待遇はすべて日立製作所と同等であり、その上、学卒者は将来の幹部要員として、育成されます。積極性と独創心、それに強健な身体をもった若者達。諸君の入社を心から歓迎いたします。

会社概要
創　立＝昭和四〇年四月一日
資本金＝七億五、〇〇〇万円
従業員数＝約三、〇〇〇名
事業所数＝営業所51　サービス工場18
出張所43　製作工場1
関係工場＝日立製作所足立工場、土浦工場
営業品目＝万能ショベル、油圧ショベル
トラクタ、トラッククレーン
農業機械、基礎工事用機械の
販売とサービスおよび小型建
設機械の製造と販売

連絡先＝東京都千代田区内神田一―一―一〇
本社総務部勤労課
電話　二九三―六一一(代)
詳細をお知りになりたい方はご遠慮なくご来社ください。

日立建機株式会社

<人間性>はいかにして裁き得るか

「東大裁判」分離強行の中で

胎動

現在、東大斗争の過程で逮捕された学生に対して、東京地裁はグループ別分離公判を強行せんとしている。欠席裁判をも辞さずとの態度をもって分離強行の意図を貫徹しようとしている。裁判が一つの強制力を持って一人の人間の意図とは関係なしに行なわれる時、その人間はどうしたらよいのだろうか。答えは余りにも簡明なのだ。裁判の持つ不当性、強制力を徹底的に粉砕する行動を展開すればよいのだ。だがこれをいっただけでは何もいっていないに等しい。少くともかれはこの現実の中においてのみ生きているのだ。かれにとってこの現実を粉々にすることができるなら、何もいとわないであろう。そうだ。武装蜂起によって国家権力を司法権力を打倒できるなら何と素晴しいであろう。しかし現実にはかれにとっても、我々にとっても現在、それだけの力量もないし、又それによって未来が開けるわけでもない。単なるクーデターでしかないからだ。そして現実を無視しようとしても無視しえない中で、かれは何をするのもめんどうになる。それでも生きてゆかねばならない以上、一歩一歩でしかなくとも、かれはかれ自身を展開するしかないのだ。裁判をかれ自身のものとするために〈全世界を獲得するために〉

かれは裁判官も検事も全て、かれの中に引きづり込まなければならないのだ。なぜなら、かれ自身を告発し、裁断し得るのは検事でも裁判官でもないからである。かれを裁くのはかれ自身なのだ。そして裁断した自己を乗越えるために行為として責任をとらねばならないのだ。それ故、かれは全ての人間を裁くなんてこともできないのだ。だが、かれは自分自身を裁く以上、他の人間に対しても「君はどうなのか」と問う。君は自分をどこまで裁断し得るのかと。そして第三者がこの問いを回避した時、かれは「ナンセンス」を叫ぶ。そしてこの問いは全ての人間に発せられる。東大斗争がこうした質を持ったものであるが故に、かれは「裁判」を自己展開の貫徹の場とするのだ。そこにこそ統一公判要求の根源はあるのだ。「東大事件」公判斗争を東大斗争にしなければならないのだ。

決起

東大斗争は何であるのか。それは人間が人間として生きようとしたことから起ったのだ。本来、人間は自由に考え、感じるはずなのだ。だが逆に人間は人間の身体組織の故に、考え感じたものを物の形に変えようとする。まさに物こそ、不変なのだから。そして「現代における絶体者は物である。」現代社会において総体的な連関の中におかれている物の力を表現するものこそ制度にほかならない。教育制度も心の物化を推進させるものとして権力が役割を与えたイデオロギー政策なのだ。こうした教育制度の中で燃え上った学園斗争そして占拠封鎖こそ人間の心の固定化を克服せんとする思想の具現化であった。現実の中で生きてゆく人間にとって思想が言葉として在るだけでは力を持ち得ない。占拠封鎖という具体的行動によって始めて斗争する個々人にとっても国家権力に対しても力を持ち得たのだ。そしてそれ故に全共斗は自己と具現した結果とを切離しはしないのだ。分離した時、かれはかれが打破せんとした論理に敗北するからである。そもそも一人の人間が分裂しなければならない時、そこに人間は存在しない。個人的立場、社会的立場云々くそくらえ　東大斗争を斗っている全ての人間にとって「加藤個人が悪いのではなく……」なる議論はまさに虚言なのだ。例え社会の中の個人が社会総体から意識までも規定されているからといって、その個人に責任がないといい得るだろうか。そうではない。もしある人間が存在しなかったら偶然性は必然性の内に留まったであろう。そして必然性を偶然性に転化したものこそ人間なのである。少くとも人間が存在しなかったら我が社会は成立し得ないのは当然だから。そして現実が、社会的制約がいかなるものであろうとも、人間が決断し、行為するが故に人間は社会を動かし得る。決断し行為する所にこそ人間は人間であり得るだろう。それ故人間は決断し行為した結果に責任を持たねばならないのだ。まさにブルジョア刑法の立脚点はここにあるのだ。だがブルジョア刑法は忘れている。加藤と大学当局そして国家権力、機動隊のことをかれらも全共斗の学生も共に暴力を行使し負傷者を出し、建造物を破壊したのだ。ここに至るとブルジョア刑法は破産する。何故ならここでは暴力の内容、質が問われねばならないしブルジョア刑法が前提とする国家権力の正当性が問われねばならないからだ。私有財産制の上に存在する現在社会がそしてそれを支える全ての人間の決断と行為（生き方）が問われるのだ。もはや加藤はかれの生き方を問われる時、全面的に全共斗に自己批判しその自己批判のもとに自ら決意し行為し、全共斗の側に立たねばならなくなるであろう。だが加藤は自らの生き方を不問に付し、制度一般に答えをそらし、あくまでかれの生き方を問う全共斗に対して国家権力、機動隊による圧殺に手をかした時、全共斗によって断罪される資格を自ら手にとってしまったのだ。丸山真男しかり、民青、右翼秩序派しかり。

行動

我々が統一公判を要求するのは「我々は何の故をもって人間であるのか。」「我々はどのように生きたいのか」の問いに対する我々の答えそのものが何ら揺るがされることなく、物理的に沈黙を強いられるからである。これはこの問いがブルジョア刑法が依拠している「近代合理主義」そしてその枠内にのみ存在してきた「自然科学の論理」で答え得ないことを示している。まさにこの問いは人間にとって根源的なそれ故に普遍的な質を持っているのだ。それ故、我々はこの問いを裁判官、検事、弁護士（特に自由法曹団なる無思考弁護士集団）そして全ての人々に向けるのだ。統一公判の場で、その時自らの存在を問わぬ者は歴史の中に消え去ることを悟り得るのだ。

（F）

コンクリートの壁の内にも存在はある

三畳小部屋見聞記

六七七号（5月20日号）に続き、東京拘置所拘留中の学友の「三畳小部屋見聞記」その後の部分を掲載する。（編集部）

（2）

―いつもおれがいちばんしゃくにさわるのは、あの口もとの甘ずっぱい痙攣だ、あの人間どもの薄笑いってやつは全くがまんできないもんだ！

（アウタ・トロル）

ここは、白く塗り込められた、いやに天井の高く感じる三畳間、東京拘置所の「ぼくの」部屋です。外には、あんなに明かるい春の朝陽が照り映えているというのに、ここにはぼんやりした光を投げかける電灯が付いています。白い壁にはあまりふさわしくないその存在は、ぼくの遠い遠い記憶の奥底にしまわれていた或る物と一致しているのです。煙を吹きあげ、窓のすき間から絶えず炭塵を送り込み走ってゆく夜行列車……。天井の電灯は、眼の中であの夜汽車のくすぶったほのかな輝きに重ねられました。この光は、母の胸に抱かれて旅した幼ない頃のあの記憶の灯に違いありません。ぼくには、梅雨の日々であるそれら以上に似かよった光なのです。

夜は、とっくに明けています。間もなくオルゴールが鳴り始めてぼくは起床です。そうして、起きて寝具を片附けなければなりません。あなたはまだ眠いの？でも起きなければなりません。それが、ここの規則なのですからね。こうして、ぼくの一日が始まります。もうぼくは長い間、ここで生活してきました。この部屋は、もうぼくの「おなじみ」です。何しろ、ぼくはこの部屋にたっぷりとぼくの歴史をしみ込ませてしまったのですから。あーあ、いくらこの麦シャリがまずいと言っても、そんなに残してはいけませんよ。そんな食欲では「担当さん」はあなたが病気ではないかと「心配」します。もっと食べて下さい。ここでは、みんな「ちゃんと」食べるのです。

ここの生活が「何と言おうと飼育されている者の生活だ」からと言って、たとえ、どんなに此処で高い精神生活を営もうと、それは、家畜の如き生活であり、これが厳然たる事実だからと言って、ぼくは決して絶望しません。当分の間こんな生活が強いられるとしてもそうです。白い壁と廊下がどこまでも続き、突き当たるごとに扉のある「病院の様な」拘置所もまた一つの社会なのです。だから飼育されているからといって歎いてはいけません。小社会の中では規則が作られます。そしてそれは「秩序厳正維持」のために適用されます。規則がある以上、「甘い言葉」や日和見主義や闘争もあるのです。ここではみんな裸です。ですから、日和見主義者は苦痛です。規則とぼくの行動とが一瞬も絶えること無く継続され、しかも「一人」でしか居られないので、日和見主義者のぼくは悩むのです。一つ一つのぼくの行為を検討するのは大切です。「ぼくは『被告人』だ。『被告人』にペンが許されているのか。こうして自由に書くことが許されているのか。今ぼくの為している行為は一体何だ。これは一体…。梅雨の代償なのでは？」と、ぼくは猜疑心をどこまでも広げてゆかなければなりません。ほんのちょっとした「慣れ合い」もここでは決定的です。ここでは、みんな自分が何であるのか知らねばならないのです。人間が家畜か、日和見主義者でないか、潔癖か、不純か。ええそうです。ここは、裸の世界なのですから。だから、ここでは――「格子」が社会の一部なのに――はっきりと見えるのです。

ぼくは今でもよく思い出します。「チェッと刑事さん！今日はひとつめんどうを見てやって下さいよ。」と金網ごしに卑屈な笑いを浮べて刑事に歎願する或る窃盗犯の男の事を。ぼくは男の卑屈な態度に極度の嫌悪感を抱かずにはおれません。ぼくの中にあの男の様な魂がまじり込んでいたら大変です。けれどああ、あの男の卑屈な笑みは何と一般的なのでしょう。ぼくは、これからも毎日、一つ一つの行為を恐れながら厳しく点検してゆくのです。機動隊に「守られ」た――驚くべきことに、其処では大学の「自治」が問題にされたのだそうです……そもそも「自治」とは権力へ向けられた共同の統一の戦線だったのではありませんか――集会場へ向かう「学生さん」たちは機動隊の質問に「僕は一般学生なんです。」と答えました。あのいまわしい笑みを浮べて。けれど、ぼくはあの人達を責めません。あの人達＝「学生さん」の行動は思考の問題以前に本能にも似た声によって統一さ

人間とは悲しい存在です。停止する限り、人間は保守的です。

東京拘置所という極度に自由の圧迫された所にいて、なおかつ、あの卑屈な笑いと奴隷性との斗争を続けなければならないのですから。克服された亡霊は再び甦えろうとしています。

あゝ、もっと本を自由に読みたい、もっと快適に暮したい……こんな願望とともに。ぼくは無限の斗争に堪えてゆきます。ぼくの心の中の奴隷性、家畜的精神との斗いに。その時、多分ぼくには規制は規制でなくなり、ぼくは欲望から解放されるに違いないでしょう。

そして、このぼくの苦闘はあなたのものでもなければなりません。なぜなら、此処、東京拘置所は日本の、世界の一部であると同時にその全部でもあるからです。

（註）「めんどうみ」＝刑事が調べあるいは調べがなくても、ホシ（犯人）を刑事部屋へ連れ出すこと。そこでは、タバコが自由にすえお茶も飲める。又お金を持っていれば、刑事に好きな食い物を注文してもらえる。刑事にとって良いホシ――つまり彼の地位向上のために――だと刑事は自腹？で様々なもてなし？をすることもある。以上を「めんどうみ」別名「おざしき」と言う。

（3）

もうぼくの話しはおしまいです。でも最後に、よく新聞の論文などはカッコイイ言葉を連ねて終っています。

それでぼくはその真似がしてみたくてまだペンを持っている次第です。

或る日、ぼくのもとに救対から「獄中書簡」集が差し入れされました。その表紙には、次の様な言葉が記されていました。

――体制はゴジされたぞ
朕はたらふく食っているぞ
匪賊共闘ムショで死ね
ギョメイギョジ

色々と差さわりがあるでしょうから、少しぼくは解説することにします。

「ゴジとは護持、維持の云、朕とは加藤一郎の別称。ムショとは刑務所なり。ギョメイギョジ――朕は常にこう署名するものなのだ。成長し肥えた豚の方が料理してもうまいだろう。」

なんという、見事な表現ではありませんか。異常な肥え方を続ける「加藤」さんの姿が目に浮かぶようです。匪賊共闘ムショで死ねとピストルを振りまわしている「加藤」さんにぼくから言う言葉を皆さんにお教え致しましょう。

ぼくは「加藤個人が悪いのではない云々」の論議を拒否します。ぼくはそんなに寛大ではないのです。「加藤」さんがピストルでぼくを殺そうとする時、ぼくは殺されぬ前に「加藤」さんを殺します。けれど、まあ先を急ぐことはないと思いますから、今日は忠告に留めておくことにしましょう。

……そこではどんな祈りも役にたたない
救世主のおゆるしも効果がない
あなたはダンテの地獄を、あのおそろしい三部曲をごぞんじないか？
そこへ詩人がおし込めたものはもはやどんな神も救い出せない――
どんな神も、どんな救世主も、この歌の炎からは救いだすことはできないのだ
気をつけるがいい！
ぼくたちがあなたをこんな地獄へおとすことがないように！

――Heine――

東京拘置所在監
現在、「帝国主義大学解体派」で拘留中

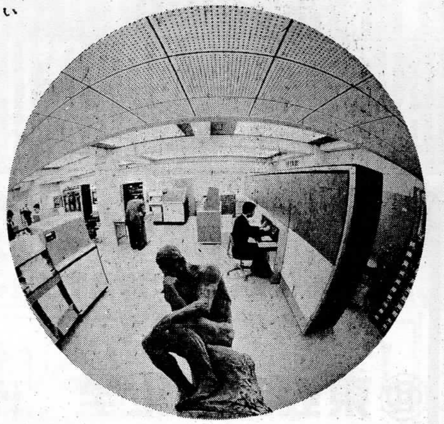
情報サービス産業＝NBC

“情報を蒐集し、蓄積・加工して必要なときに検索できる”……どういうことかお分りですか？

この操作を適正に行うことが人類の進歩と発展につながります。言葉では簡単ですがこの中にはあなた自身と共に無限の可能性が秘められています。そして、その鍵を握っているのがほかならぬあなたです。

NBCはこうした夢と可能性をもった青年企業です。全国を網羅したコンピュータ・ネットワークには30セットを超える電子計算機システム群と、厖大な周辺機器を一せいに稼動できる規模をもっています。そのブレーンやスタッフも多様で一流の折紙と信用を得ている極めてユニークな会社です。

あなたの専攻分野を問いません。新しい産業の革命に情熱を燃やすあなたならば……。



採用関係連絡先
東京都港区南青山3丁目8番40－201号（〒107）
株式会社日本ビジネスコンサルタント
総務部人事課　TEL（403）4171

NBC 株式会社日本ビジネスコンサルタント

NRCはビッグビジネスのカウンセラーです

二十一世紀の花形は情報産業であるといわれます。しかし、ひとくちに情報産業といってもその関連分野は、収集、解析、伝達、貯蔵の四つに大別されます。収集は各種調査機関、解析はコンピューターセンター、伝達は電波、電信電話の各メディア、貯蔵はデータバンクが中心になって行なっています。

日本リサーチセンターは、この収集、解析の分野で活躍するもっとも代表的な市場調査機関です。いかに伝達がスピードアップされ、解析が高度化しても、そこにインプットされるデータの質が粗悪であれば、決して有効な結果を引き出すことはできません。

その点日本リサーチセンターは、心理学、社会学、数理統計学などの最新の成果をとり入れ、消費構造や市場動向についての科学的にコントロールされたデータを収集しています。ですからこうした仕事を遂行するためには、統計の基礎知識から精神分析にいだるまで人間と社会についての幅広い知識が必要とされます。おそらく今日の社会で、リサーチャーほど完全なビジネスエリートであることを要求される職業は他にないと思います。

スペシャリストであると同時にゼネラリストであることを要求されるこの業界で、日本リサーチセンターはトップクラスとはいえ、まだビッグビジネスではありません。もし就職ということが〝就社〟を意味するのなら、日本リサーチセンターを選ぶことは賢明とはいえないかもしれません。しかし、就職が文字どおり、生涯の職業を選ぶことであるなら能力主義時代の職業として、日本リサーチセンターほど輝かしい未来が約束されている企業は他にないと思います。

大学で何を専攻したか、何を経験したかにまったく関係なく、私たちが求めるのはこんな人です。**学問の言葉をビジネスの言葉に翻訳できる人。ビジネスに徹するにはまだ学問に未練のある人。象牙の塔にこもるにはあまりにも人間に関心のある人。コネや肩書でなく自らの知力で生きようとする人。モノの生産より情報収集に興味のある人。**

あなたがこのうち、どれか一つにでも該当するなら、すぐに日本リサーチセンターをお尋ねください。きっとあなたの生涯の職業がここにあると確信しています。

日本リサーチセンター

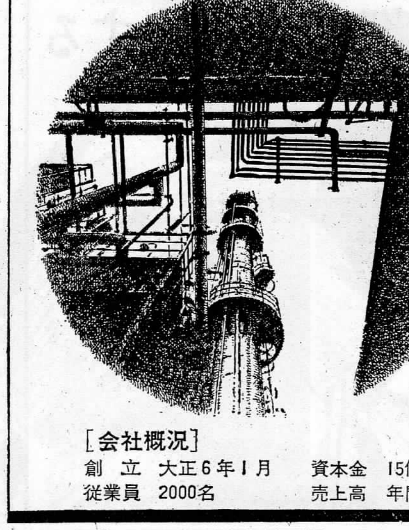
本社　東京都中央区西八丁堀二ノ六（第二長岡ビル）
電話（五五二）〇三七一番（代表）

NRCはこんな会社です
●資本金／八、〇〇〇万円●社員数／一二〇名●出資会社／味の素、朝日麦酒、富士写真フィルム、富士製鉄、森永乳業、野村証券、東洋レーヨン、大洋漁業、トヨタ自動車など大手企業十六社の共同出資による。

応募される方へ
●初任給／三五、〇〇〇円　今年度実績●資格／昭和四十五年三月大学卒業予定者●募集職種／市場調査部門（調査企画、分析、報告書作成、サンプリング、プログラミング等）●入社後の待遇／隔週土曜休日、三年に一回一ヵ月の研修休暇、Gallup Poll（Princeton, U.S.A.）への選抜留学

諸君の創造力に期待する

鹿島臨海工業地帯石油化学コンビナートへ進出
一段と飛躍する総合化学の旭電化



本社略図

●就職についての御相談はいつでもお気軽にお問合せ下さい。
「入社案内」「会社概況」等資料御希望の方は本社人事一課迄御連絡下さい。

［会社概況］
創　立　大正6年1月　　資本金　15億
従業員　2000名　　売上高　年間200億

旭電化工業株式会社

本　社　東京都中央区日本橋室町2の8古河ビル／TEL東京270－7511（大代表）